

Sunフロア 耐熱ハードU（各色）  
厚膜型水性硬質ウレタン樹脂床用塗料

- ☐規格表示

☐特徴
- - ・耐熱水性や耐衝撃性に優れています。釜下等にも施工可能です。
  - ・臭気が少ないので臭い移りが嫌われる食品関係工場に適しています。
  - ・1回塗りで仕上がるので施工時間の短縮が可能です。

☐塗料性状

	塗料液(主剤)	硬化剤	骨材
色	各色	褐色	白色
密度(g/cm <sup>3</sup> )(23℃)	1.44(混合液)		
光沢	つや消し		
引火点	なし	213℃	なし
発火点	データなし	データなし	データなし
消防法表示	化学名	合成樹脂エマルション塗料	イソシアネート化合物
	危険物区分	第4類 第4石油類(非水溶性)	セメント・シリカ混合物
	危険物等級	Ⅲ(火気厳禁)	非該当
有機溶剤区分	なし	なし	なし
毒劇物表示	—	—	—
有害物表示	—	イソシアネート	—
ホルムアルデヒド 放散等級	登録(認証)番号	A05036	
	区分表示	F☆☆☆☆	
	問合せ先	http://www.toryo.or.jp	
国連／指針番号	非該当／非該当	非該当／非該当	非該当／非該当
環境性能	クロルピリホス	配合せず	ホルムアルデヒド
	キシレン	配合せず	パラジクロロベンゼン
	スチレン(モノマー)	配合せず	エチルベンゼン
	フタル酸ジ-n-エチルヘキシル	配合せず	テトラヒカン
	フェノール	配合せず	アセトアルデヒド
TVOC	0.0%		

- ・塗料性状に記載の数値は、全て代表的は色相、つやを想定しています。
- ・施工時、施工後の気温が15℃以下となる場合は必ず ”Sunフロア硬化促進剤” を予め主剤に添加し攪拌してください。
- ・施工環境及び床温は5℃～30℃の範囲で施工を行ってください。

☐塗装基準

- 混合

荷 姿

ポットライフ

希 釈 剤

塗 装 方 法
- : 3材のため、「塗料液(主剤):硬化剤:骨材=1:1:10(重量比)」に混合し、ハードミキサーにて規定時間攪拌してください。

: 24kgセット(塗料液(主剤):硬化剤:骨材=2kg:2kg:20kg)

: 15分(23℃)

: 無希釈

塗装方法	こて塗り+マスチックローラー(仕上げ)
希釈率/1コート	—
使用量/1コート	13～19kg/㎡/回 1コート
希釈率/2コート	—
使用量/2コート	—

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

☐乾燥時間

	5～10℃	23℃	30℃
硬化時間① 促進剤なし	適応外	16時間	10時間以内
硬化時間② 促進剤2%	5℃適応外／10℃18時間	適応外	適応外
硬化時間③ 促進剤3%	5℃20時間／10℃14時間	適応外	適応外

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。
- ・温度別の促進剤の使用量と乾燥時間詳細については標準施工仕様書をご確認ください。

□ 注 意 事 項

- 本製品主剤は水系であり0℃以下では凍結するおそれがあります。一度凍結した樹脂は元に戻らないため使用できません。また骨材は水和成分を含むため、水分の供給をうける雰囲気では使用前に硬化してしまう可能性がありますので保存にご注意下さい。
- 低温の場合では硬化が完全に進まずひび割れが生じたり、結露による白化のリスクが高まります。冬季の施工・養生中には温風暖房装置等で加温して環境を整えてください。一方、高温時では可使時間が極端に短くなり仕上がり不良やふくれの原因となります。エアコン、送風機の使用をお勧めいたします。
- 配合比、攪拌時間は厳守して下さい。ひび割れや発泡等の不具合の原因となります。15～5℃の低温施工時には骨材の分散不良による白化を防止するために攪拌時間を延長してください。
- 各温度に適した硬化促進剤(Sunフロア硬化促進剤)の添加を厳守して下さい。不足すると強度発現が遅れ、ひび割れ、白化等の原因となります。一方、硬化促進剤を必要としない温度時に添加するとふくれや仕上がり不良となる可能性がありますので硬化促進剤の不用意な添加は避けてください。
- 使用量が多いと、樹脂浮きや激しくなり、ひび割れや反りによる塗膜の浮き発生の可能性が高くなります。また、表面のソツソツや灰酸ノブによるふくれの発生につながります。
- 使用量が少ないと、コテおろしによる仕上がり不良の原因となります。
- 軽歩行や水洗いは10時間後から可能ですが(23℃)、車輛の走行は塗装後72時間が経過した後にしてください。早期の使用は、塗膜が剥がれたり、靴跡、タイヤ跡などの不具合が生じます。
- 塗料液と硬化剤を混ぜたものを缶の中に入れておくと、急激に発熱し危険な状態になるおそれがあるため、速やかに床に流し施工してください。残った場合は発熱防止のため水を10cmほど張ってください。
- 完全硬化前に塩素系消毒剤を使用しますと、赤褐色に変色する可能性があります。次亜塩素酸塩濃度は300ppm程度に薄めたものを使用してください。消毒作業後、消毒剤が残留すると水分の揮発により濃縮される可能性がありますので、十分な水洗を行ってください。塗付後1週間未満時に消毒作業を行うときは、目立たない部位に消毒液をたらし、変色のないことをご確認されることをお勧めいたします。
- 下地が強化コンクリートや着色コンクリートの場合は、付着性向上のため研削機を用いて、下地表面を物理的に目粗ししてください。
- 軽量コンクリート(いわゆるシンダーコンクリート)には塗装しないでください。
- 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製GH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツ科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- 下地コンクリートに水たまり等がある場合、ウエス等で拭き取り、ガスバーナー等で強制的に乾燥させてから塗装してください。
- 下地コンクリートは研削し表面のレタス、エフロッセスなどの粉化物、ぜい弱部は十分に除去してください。ひび割れがある場合にはひび割れに沿ってUカット目地(10mm×10mm)を入れてください。
- 水勾配は必ず下地コンクリートでとってください。
- 植物油、鉱物油等がしみ込んでいる場合、中性洗剤にて洗浄し、研削機にて研磨処理を行ってから塗装してください。
- 下地コンクリートは、塗膜応力の反りによる剥離防止のため、あらかじめ端部に欠き込みをつくり、平面部は10m程度間隔で目地切りを実施ください。目地寸法はUカット目地(10mm×10mm)となります。
- 主剤は、使用前に必ず充分攪拌してから使用してください。(着色剤が分離しているおそれがあり、色むらの原因になります)
- 主剤と硬化剤で充分攪拌した後、ハードミキサーで攪拌しながら骨材を徐々に投入し、骨材を投入し終わってから規定時間攪拌してください。15～5℃の低温施工時には攪拌時間を延長してください。混合容器は丸缶を使用してください。
- 攪拌後の缶には残さが残らないようにしてください。発泡の原因となります。また、攪拌場所や材料を運ぶ通路では樹脂がこぼれ、その上に施工した場合ではガスによる発泡が発生する可能性があるため養生シートを用いるなど注意をしてください。
- 材料は5℃以上で保存してください。また、夏場の保管では使用材料が高温にならないよう注意してください。
- 骨材は湿気を避けて保管し、地面に直置きしないでください。開封済みの持ち越した骨材は使用しないでください。
- 材料はセツ練りを基本とし、やむを得ず小分けする場合には内容物を十分に攪拌均一化した後に秤量して分けてください。
- 施工可能な温度範囲内で施工し(5～30℃)、各温度に適した量の硬化促進剤を添加してください。
- 硬化促進剤は温度に対する適切な量を使用してください。その際、計量カップ、シリンジ、電子天秤等を用いて精秤してください。硬化促進剤使用時は主剤に投入し、十分混合してから硬化剤と混合してください。
- 上塗り材は製造ロットを合せて施工してください。シンナーや水などを添加しないでください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害を起こすおそれがあります。
- 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットを必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法等の塗装条件を同一にしてください。
- 施工に関しての詳細な注意事項は標準施工仕様書をご参照ください。
- 室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮お願い致します。
- 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク又は送気マスク、保護手袋、保護メガネ、前掛け等を着用してください。
- 塗装場所の気温が5℃以下、湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、製品安全データシート(SDS)をご参照ください。

Sunフロア 耐熱ハードU (各色)  
厚膜型水性硬質ウレタン樹脂床用塗料

成分表

(塗料液(主剤))	ポ	リ	オ	ー	ル	含	有	樹	脂	45~50
	着			色		顔		料		1~10
					水					45~50
	合							計		100
(硬化剤)	イ	ソ	シ	ア	ネ	ー	ト			100
	合						計			100
(骨材)	紛							体		100
	合						計			100
(混合比)	24kgセット(塗料液(主剤)/硬化剤/骨材=2kg/2kg/20kg)									

性能表

試験項目	規格	性能
容器の中での状態	かき混ぜたとき堅い塊がなく一様である。	合格
塗装作業性	塗装作業に支障があってはならない。	合格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であるものとする。	合格
耐摩耗性	規定回転数当たりの磨耗減量30mg以下。	合格
耐衝撃性(デュボン式)	衝撃による変形で塗膜に割れ・はがれを生じないものとする。	合格
耐水性	6時間水に浸したとき異常がない。	合格
耐アルカリ性(水酸化カルシウム飽和溶液)	6時間アルカリに浸したとき異常がない。	合格
ホルムアルデヒド放散量	F☆☆☆☆:0.12mg/L以下	合格

・製品の安全に関する詳細な内容については、製品安全データシート(SDS)をご参照ください。